

2022年3月期第1四半期 決算説明資料

2021年8月3日

目次

1. 2022年3月期 第1四半期決算	P. 3
2. 2022年3月期 通期業績予想	P. 8
3. トピックス	P. 11
4. 参考資料	P. 15

2022年3月期 第1四半期業績

(単位：億円)

	2021/3 1Q実績	2022/3 1Q実績	対前年同期	
			増減	%
売上高	829	1,114	+284	+34.3%
営業利益	31	139	+109	+350.7%
経常利益	39	152	+114	+293.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6	123	+116	+1,834.3%
為替レート USD/JPY	108	110		

2022年3月期 第1四半期の事業環境は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年同期と比較して、自動車や電子材料など様々な産業で経済活動が回復してきました。このような中、製品需要回復に応じた拡販や市況上昇に伴う価格是正の実施だけでなく、事業構造改革やコストダウンなど収益基盤の改善に取り組んだことにより、対前年同期で増収増益となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益の増益要因には、20年10月にポリプラスチックス完全子会社化を実施した影響が含まれています。

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期）

（単位：億円）

売上高	2021/3 1Q実績	2022/3 1Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	39	48	+9	+22.0%	+10	△ 1	+1
スマート	51	80	+29	+56.2%	+24	+5	+0
セイフティ	107	163	+56	+52.5%	+49	+7	+2
マテリアル	256	283	+27	+10.5%	△ 6	+33	+3
エンジニアリング プラスチック	352	515	+163	+46.2%	+119	+43	+5
その他	24	26	+2	+6.9%	+2	-	-
合 計	829	1,114	+284	+34.3%	+197	+87	+11

営業利益	2021/3 1Q実績	2022/3 1Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
メディカル・ヘルスケア	4	9	+4	+107.3%	+6	△ 2	+0	+1
スマート	6	20	+14	+229.5%	+11	+3	△ 0	△ 0
セイフティ	△ 23	7	+30	-	+36	+3	+0	△ 8
マテリアル	39	60	+22	+55.8%	△ 4	+21	+1	+5
エンジニアリング プラスチック	39	82	+43	+109.6%	+59	+7	+2	△ 23
その他	4	5	+1	+24.6%	+1	-	-	-
全社	△ 38	△ 44	△ 6	△ 14.8%	-	-	-	△ 6
合 計	31	139	+109	+350.7%	+108	+32	+4	△ 31

通期予想（※）に対する進捗率

（単位：億円）

全社業績	2022/3 1Q実績	通期予想	進捗率 %	セグメント別 売上高・営業利益	売上高			営業利益		
					2022/3 1Q実績	通期予想	進捗率 %	2022/3 1Q実績	通期予想	進捗率 %
売上高	1,114	4,200	26.5%	メディカル・ヘルスケア	48	180	26.6%	9	15	56.7%
営業利益	139	270	51.6%	スマート	80	260	30.7%	20	30	65.8%
経常利益	152	290	52.5%	セイフティ	163	720	22.6%	7	45	16.4%
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	123	220	55.8%	マテリアル	283	1,010	28.0%	60	105	57.5%
				エンジニアリング プラスチック	515	1,920	26.8%	82	225	36.5%
為替レート USD/JPY	110	105		その他	26	110	23.2%	5	15	35.5%
				全社	-	-	-	△ 44	△ 165	26.6%
				合計	1,114	4,200	26.5%	139	270	51.6%

2022年3月期 第1四半期は、一部の事業が半導体不足による自動車減産の影響を受けたものの、化粧品原料や電子材料関連製品、エンジニアリングプラスチックなどの需要増加により販売数量が計画を上回りました。また、製品市況の上昇などにより、全体の収益は通期予想を上回る進捗で推移しました。

※ 2021年5月12日に発表した業績予想です。

事業の状況

当第1四半期の各セグメントの状況は以下の通りです。

メディカル・ヘルスケア	- 化粧品原料の1,3BGは、一時的な競争環境の変化により販売数量が計画より増加 - キラル分離事業は、海外でのカラムの販売が計画より増加
スマート	- 液晶パネル市場が想定より好調に推移し、液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースの販売数量は計画より増加。パネル在庫が増加傾向にあり下期は当初計画水準と予想 - 半導体、液晶パネル材料市場の需要が想定より好調に推移し、電子材料溶剤、レジスト材料は販売数量、金額ともに想定より増加
セイフティ	半導体不足による自動車生産台数減少の影響を想定以上に受け、インフレータの販売数量は計画より減少
マテリアル	- 酢酸は市況が想定より上昇。酢酸市況の上昇に伴い、酢酸誘導体の販売価格も想定より上昇。今後の酢酸の需給環境は軟化の見込み - アセテート・トウは、ほぼ計画通り推移 - カプロラクトン誘導体やエポキシ化合物などは、電子材料用途の復調、原料価格上昇に伴う販売価格の是正などにより、売上は計画より増加
エンジニアリングプラスチック	- 市場の需要が想定よりも強く、販売数量は計画より増加。価格是正も強力に推進。既にフル稼働であり今後の供給能力に制約 - 半導体不足による自動車減産の販売への影響は限定的

連結貸借対照表

(単位：億円)

		2021年 3月末	2021年 6月末	増減
流動資産		3,125	3,161	+36
	現預金及び有価証券	915	863	△ 53
	受取手形及び売掛金	932	867	△ 65
	棚卸資産	1,087	1,177	+91
	その他	192	254	+62
固定資産		3,279	3,413	+135
	有形固定資産	2,197	2,236	+39
	無形固定資産	106	116	+10
	投資その他資産	975	1,060	+85
資産合計		6,404	6,574	+171
負債		3,954	3,984	+31
	有利子負債	2,709	2,711	+1
	その他	1,244	1,274	+29
純資産		2,450	2,590	+140
負債純資産 合計		6,404	6,574	+171

資産合計は、前期末比171億円増加

- ・エンジニアリングプラスチックなど、コロナ禍からの需要回復対応で減少した在庫の積み増しを実施
- ・自動車エアバッグ用インフレータのインド拠点、エンジニアリングプラスチック（COC）増強などの設備投資
- ・政策保有株式の時価の上昇

2022年3月期 通期業績予想の修正

(単位：億円)

	2021/3 実績	2022/3 当初予想(※)	2022/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	3,936	4,200	4,350	+414	+10.5%	+150	+3.6%
営業利益	317	270	350	+33	+10.3%	+80	+29.6%
経常利益	347	290	370	+23	+6.7%	+80	+27.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	197	220	240	+43	+21.7%	+20	+9.1%
為替レート USD/JPY	106	105	106				

足元の業績動向、製品及び原料市況を踏まえて、通期業績予想を見直しました。

引き続き販売価格の是正など収益向上に取り組んでまいります。当初計画よりも上昇している原燃料価格が、第2四半期以降も現状水準で継続すると予想しています。

※ 2021年5月12日に発表した業績予想です。

セグメント別 売上高・営業利益

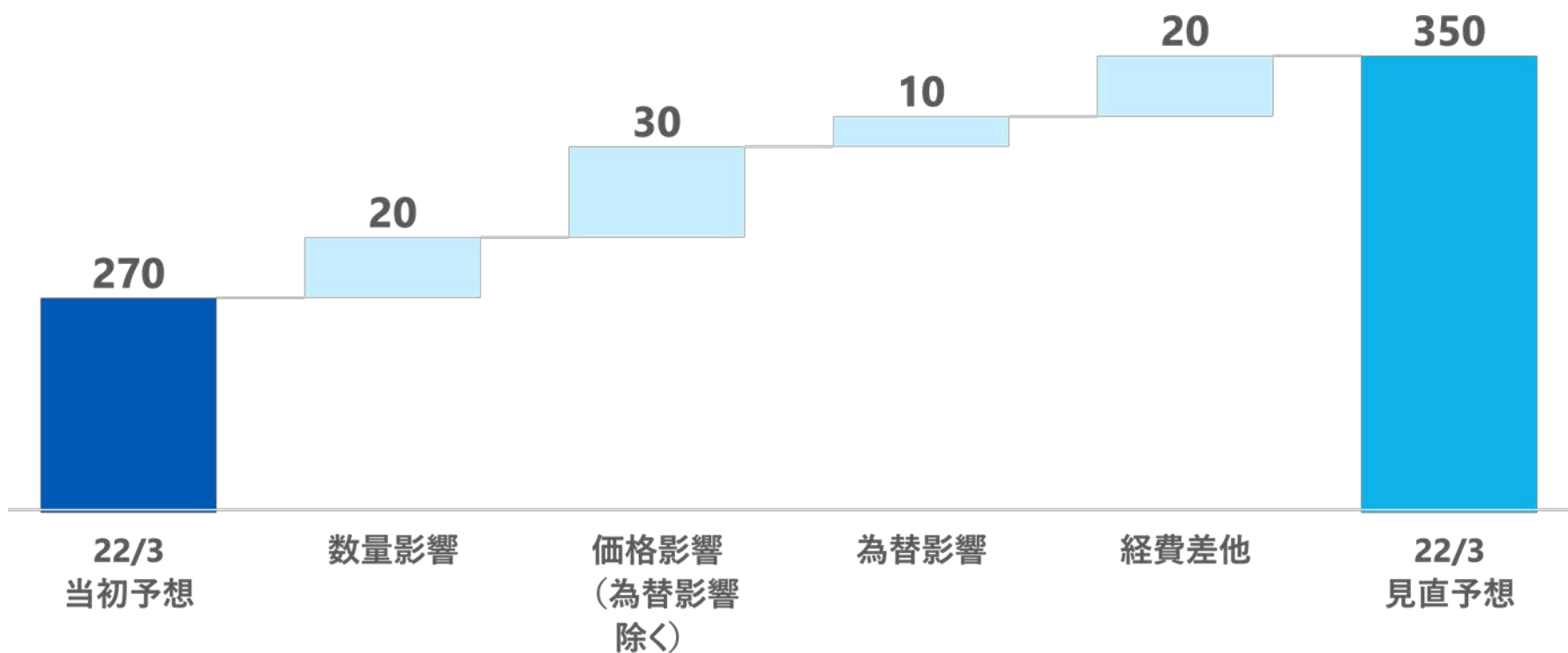
(単位：億円)

売上高	2021/3 実績	2022/3 当初予想	2022/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	162	180	190	+28	+17.2%	+10	+5.6%
スマート	247	260	280	+33	+13.4%	+20	+7.7%
セイフティ	672	720	735	+63	+9.3%	+15	+2.1%
マテリアル	1,042	1,010	1,085	+43	+4.1%	+75	+7.4%
エンジニアリング プラスチック	1,686	1,920	1,950	+264	+15.7%	+30	+1.6%
その他	127	110	110	△ 17	△13.2%	-	-
合 計	3,936	4,200	4,350	+414	+10.5%	+150	+3.6%

営業利益	2021/3 実績	2022/3 当初予想	2022/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	16	15	23	+7	+47.3%	+8	+53.3%
スマート	34	30	42	+8	+23.1%	+12	+40.0%
セイフティ	22	45	65	+43	+191.3%	+20	+44.4%
マテリアル	179	105	140	△ 39	△21.9%	+35	+33.3%
エンジニアリング プラスチック	212	225	230	+18	+8.6%	+5	+2.2%
その他	15	15	16	+1	+8.0%	+1	+6.7%
全社	△ 161	△ 165	△ 166	△ 5	△3.4%	△ 1	△0.6%
合 計	317	270	350	+33	+10.3%	+80	+29.6%

2022年3月期 業績予想 営業利益増減分析（対 当初予想）

（単位：億円）



ヘルスケアSBU 腸を起点とする健康食品素材の共同研究成果

近年、腸内細菌が中枢神経や肥満・糖尿病などのさまざまな全身疾患に関与することが明らかとなり、腸内細菌の制御と疾患との関係に注目が集まっています。

ヘルスケアSBUの中期戦略でも腸を起点とした健康食品素材の開発に注力しています。

◇「ウロリチンA」による、サーチュイン遺伝子発現増強効果を確認

- ・ 世界初、発酵法によるザクロ果皮由来エラグ酸の腸内代謝物「ウロリチンA」（製品名：URORICH™・ウロリッチ™）の工業生産に成功
- ・ 九州大学との共同研究により、「ウロリチンA」が長寿遺伝子とも言われるサーチュイン遺伝子の発現増強効果を有することを確認

ニュースリリース：<https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210716.pdf>



◇当社独自の酢酸セルロースにより、酢酸の腸内免疫制御機構を解明

- ・ 理化学研究所との共同研究により、酢酸が大腸で免疫グロブリンA（体内に異物が侵入した時に抗体として働いたんぱく質の一つ）の産生を増加させることを解明
- ・ 長年培った当社技術を生かし、人の胃や小腸でほとんど消化吸収されずに、大腸まで酢酸を届けられる食用素材として水溶性酢酸セルロースを開発
- ・ この研究成果は科学誌『Nature』に掲載

ニュースリリース：<https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210715.pdf>

ダイセルグループの総合力で取り組む5G/6Gの技術開発

当社グループは、導入が進む5Gとその次世代規格となる6Gに関連する材料や技術の開発を、グループの総合力と社外との積極的な連携によって進めています。

以下のテーマは**NEDO「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」先導研究**に採択されており、当社グループの強みである幅広い素材、合成・重合技術、計算科学を用いたシミュレーション技術を生かして研究に取り組んでいます。

◇ ミリ波・テラヘルツ帯向け高機能材料・測定技術の研究開発

6Gで期待される更なる高速大容量、超低遅延、多数同時接続の実現には、ミリ波からテラヘルツ帯の高周波を利用することで通信帯域を確保する必要があります。

この高周波伝送を可能にするため、①次世代超ロークロス低誘電材料、②平滑導体と低誘電材料の高信頼接合技術、③テラヘルツ帯通信用材料の測定技術の開発に取り組めます。

◇ ポスト5G半導体のための高速通信対応高密度3D実装技術の研究開発

6Gの高速大容量、超低遅延には半導体の高機能化も不可欠で、前工程の微細化に加え、複数半導体を3次元で集積する先端後工程の重要度が増しています。

先端後工程である高密度3次元実装を実現するため、①高周波対応高密度パッケージCu焼結接合技術、②高信頼・高性能ビルトアップ半導体サブストレイト技術、③高周波パッケージ導波路コネクタ技術の開発に取り組めます。

ニュースリリース：https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20210628_1.pdf

機能の意識で既存商品の潜在用途を発掘 「DAISI™」ブランド、始動

中期戦略で掲げた「機能の意識」とは、既存商品の本質的な機能を捉え直すことで、その機能が応用できる新たな市場分野を開拓し、新事業を創出することを指します。

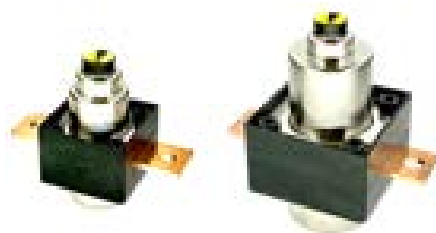
自動車エアバッグ用インフレーターで培った自社技術を「安全、確実、瞬時に、一度だけ最適なエネルギーを生み出すシステム」と捉え直しました。これを「One Time Energy™」と名付け、この技術を活用した製品群を「DAISI™」ブランドに統合しました。（DAISI = **DA**ICEL **S**aving **I**nnovation）

既に市場調査を進めている電流遮断器や薬剤投与デバイスに加え、「One Time Energy™」の更なる用途拡充を進め、新事業の創出に取り組みます。



ブランドサイト

<https://www.daicel.com/safety/daisi/>



Pyro-Fuse
(電流遮断器)



薬剤投与デバイス等
(アクトランザ™ラボ)



プラント用緊急安全弁

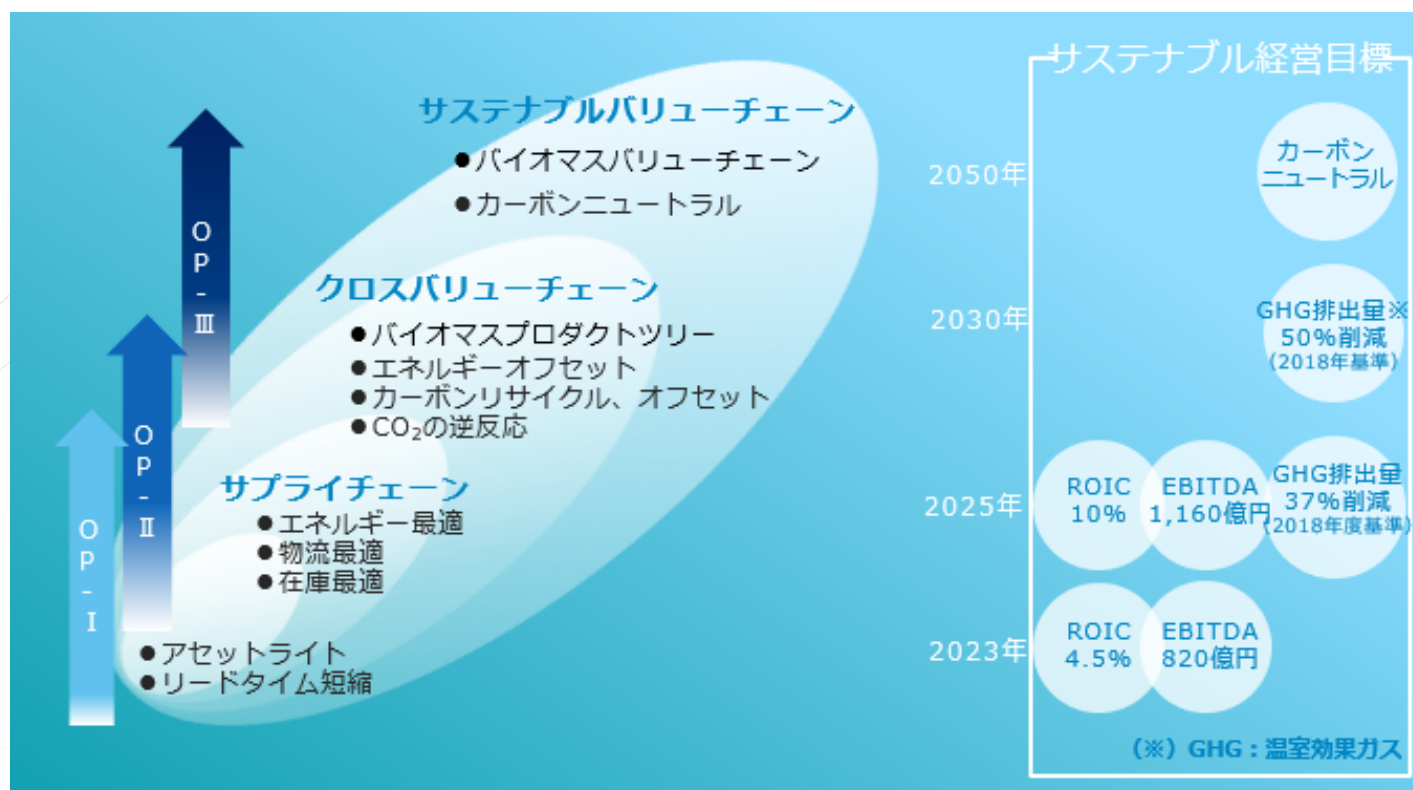


救命ジャケット
(高所作業、バイク・乗馬等)

GHG排出量、削減目標を引き上げ 2030年排出量50%削減へ

GHG排出量の削減目標値を、2021年2月に発表した中期戦略から引き上げ、**2030年度50%削減（2018年度基準）**としました。

「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、中期戦略で示した3つの段階（OP-I、OP-II、OP-III）の施策を通じて、地球や人に優しいプロセス実現し、サステナブル経営目標の達成を目指します。



参考資料

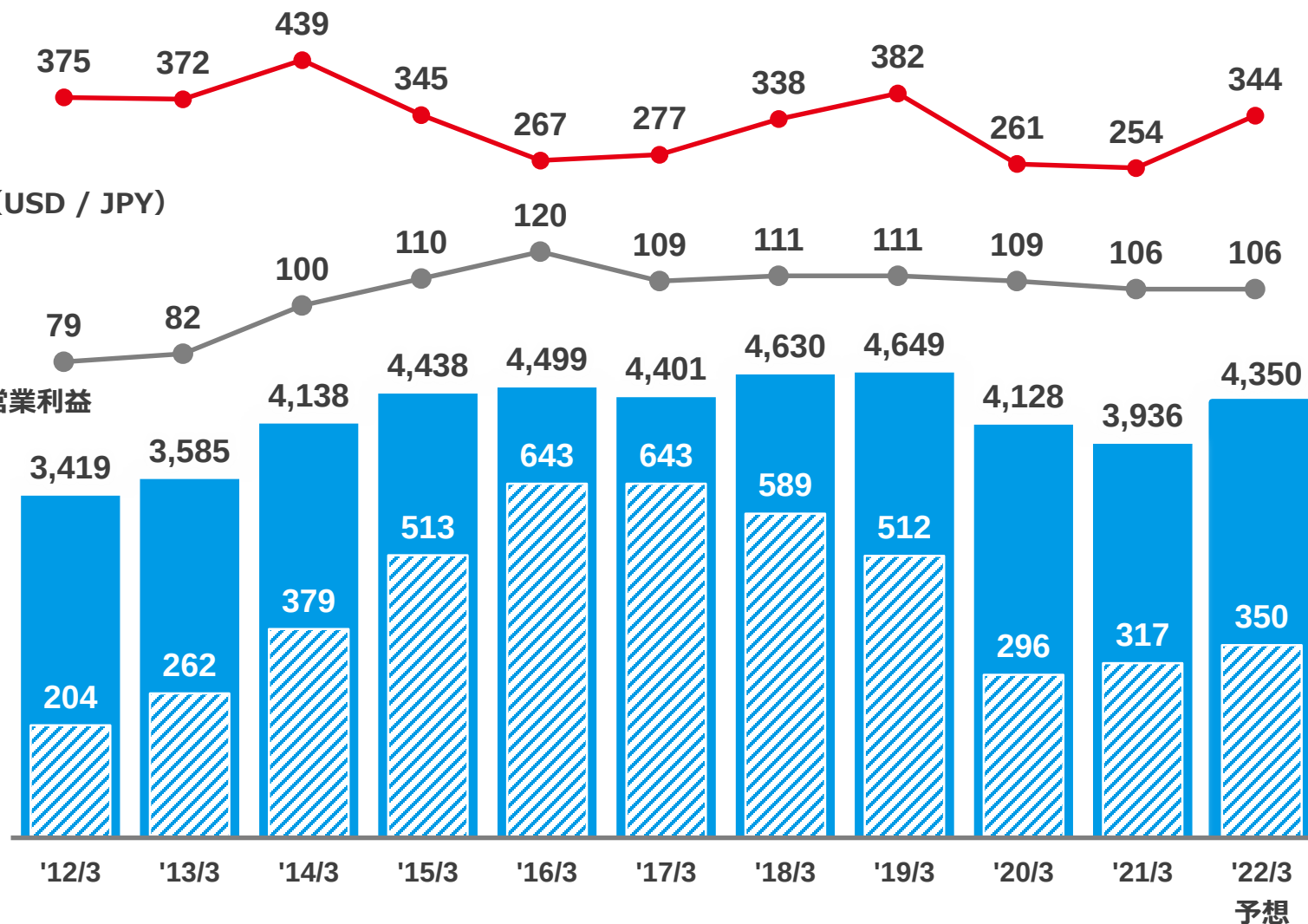
売上高・営業利益の推移・予想

(単位：億円)

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高 ▨ 営業利益



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2021/3				2022/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	39	39	42	42	48
スマート	51	52	73	71	80
セイフティ	107	165	195	205	163
マテリアル	256	237	256	293	283
エンジニアリングプラスチック	352	395	465	474	515
その他	24	37	30	36	26
合 計	829	924	1,060	1,122	1,114

営業利益	2021/3				2022/3
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
メディカル・ヘルスケア	4	4	4	3	9
スマート	6	4	10	13	20
セイフティ	△ 23	6	22	17	7
マテリアル	39	36	34	71	60
エンジニアリングプラスチック	39	43	58	71	82
その他	4	5	4	2	5
全 社	△ 38	△ 39	△ 36	△ 47	△ 44
合 計	31	60	96	130	139

2022年3月期通期業績予想

(単位：億円)

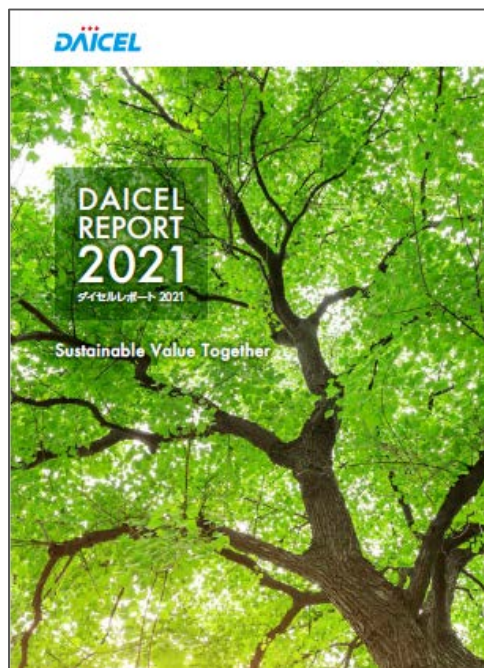
		2022/3 当初予想			2022/3 見直予想			増減
		上期予想	下期予想	年間	上期予想	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	85	95	180	95	95	190	+10
	スマート	135	125	260	155	125	280	+20
	セイフティ	340	380	720	350	385	735	+15
	マテリアル	495	515	1,010	555	530	1,085	+75
	エンジニアリングプラスチック	960	960	1,920	1,010	940	1,950	+30
	その他	55	55	110	55	55	110	-
売上高		2,070	2,130	4,200	2,220	2,130	4,350	+150
	メディカル・ヘルスケア	8	7	15	16	7	23	+8
	スマート	23	7	30	35	7	42	+12
	セイフティ	15	30	45	30	35	65	+20
	マテリアル	70	35	105	105	35	140	+35
	エンジニアリングプラスチック	105	120	225	125	105	230	+5
	その他	7	8	15	8	8	16	+1
	全社	△ 88	△ 77	△ 165	△ 89	△ 77	△ 166	△ 1
営業利益		140	130	270	230	120	350	+80
経常利益		150	140	290	240	130	370	+80
親会社株主に帰属する当期純利益		110	110	220	160	80	240	+20
(参考) 為替レート USD/JPY		105	105	105	107	105	106	

前提条件

		2021/3 実績		2022/3 当初計画		2022/3 実績+見直計画		
		上期実績	下期実績	上期計画	下期計画	1Q実績	2Q計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		107	105	105	105	110	105	105
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	192	316	280	280	357	340	340
	原油 ドバイ (USD/bbl)	37	53	50	50	67	70	70
	国産ナフサ (円/kl)	27,500	34,500	32,000	32,000	48,000	48,000	48,000

ダイセルレポート2021発行、サステナビリティサイト更新（8月末/日本語版）

2021年8月末に、ダイセルレポート2021を発行します。
本レポートは、ステークホルダーの皆さまに向けて、
当社の企業価値向上への道筋を財務・非財務情報を組み合わせてご説明するものです。



◇2020年度に策定した長期ビジョン、中期戦略の解説

サステナブル経営方針と紐づけながら、中期戦略とその進捗を紹介

◇マテリアリティを新たに策定

中期戦略を促進するサステナビリティ重要課題を設定

◇サステナブル調達の情報開示を拡充

主要サプライヤーへCSR調達アンケートを実施

◇社外役員座談会を実施

中期戦略達成に向けた期待・抱負、リスクマネジメントについて議論

レポートのPDF版、ならびにより詳しいESG取り組み情報は、
弊社サステナビリティサイトをご覧ください。<https://www.daicel.com/sustainability/>
※英語版はレポート・サイトともに10月の発行・更新を予定しています。

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。